

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
30	宮崎中学校	榎原真也

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none">理想を高め、自主自律ある人間の育成勤労を尊び、実践力ある人間の育成豊かな情操を身につけた人間の育成互いに人権を尊重し合える民主的人間の育成国際的な視野に立ち、互いの文化を尊重できる人間の育成	<ol style="list-style-type: none">働き方改革の推進授業力向上の推進心を育てる教育実践安全危機管理意識の向上と実践	<ol style="list-style-type: none">働き方改革の視点での業務改善と教職員の意識改革学習指導要領の理解と趣旨に即した授業実践と学習評価及びGIGAスクール構想の実践自己肯定感を高める指導の実践、いじめ・不登校への対応の充実危機管理意識の向上と防災訓練の取組の充実地域・保護者との連携の推進

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 働き方改革の視点での業務改善と意識改革	<ul style="list-style-type: none">働き方改革に関わる様々な施策の地域・保護者への理解を促進するための情報発信教育改革のチームを作り、業務改善を推進する	<ul style="list-style-type: none">教職員の働き方改革について、保護者・地域に理解を得るために、学校経営目標の1番の柱とし、学校HP等に乗せ積極的に情報発信をした。また、年3回の学校運営協議会においても、毎回議題の一つとして取り上げ、取組について理解と協力を求めた。クロムブックのクラスルームを活用し、これまでであった会議をなくしたり時間を短縮したりした。学校HPやミマモルメを活用し情報発信することで、各種文書を廃止した。勤務時間外の在勤時間について、月に80時間や100時間を超える職員が減少してきている。	<ul style="list-style-type: none">教育改革のチームでの業務改善に関する取組を継続し、業務の効率化や意識改革に努める。教職員の働き方改革についての地域・保護者への情報発信を継続し引き続き理解を求める。次年度も実施する。超過勤務時間は減少傾向にあるが、面談等を継続して実施し、さらなる改善に努める。
2 一人一人を大切に授業づくり	<ul style="list-style-type: none">学習指導要領の趣旨に則した授業づくりと学習評価	<ul style="list-style-type: none">経験の浅い教員の授業力の向上、経験豊富な教員に対しては日頃の授業の見直しを目的として、全教科の指導主事を招いての拡大要請訪問を実施した。川崎市学習状況調査の調査結果を見ると、5教科について「どれくらい授業がわかっているか」という質問に対する肯定的な回答の割合は各学年とも7割程度となっている。	<ul style="list-style-type: none">各教科の学習評価について、大きなトラブルは無く評価ができた。評価の精度を高めるよう、評価方法に関する情報の収集と研鑽に引き続き努める必要がある。考える力を伸ばす授業についてさらに指導力を向上させるよう授業研究に努めていく。
3 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	<ul style="list-style-type: none">習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の推進	<ul style="list-style-type: none">数学においてTTによる指導を実施した。長期休業中に補習授業を実施し、基礎的な学力定着に努めた。学習状況調査の調査結果を見ると、5教科について市全体の状況と比較すると良好な状況と言える。保護者アンケートからは約3割の保護者が学習意欲について不安を感じている状況がうかがえる。	<ul style="list-style-type: none">基礎・基本の確実な習得について、概ね良好な状況といえるが、学習意欲の向上につながる指導方法について研修等を実施していきたい。
4 GIGAスクール構想に則したICT機器の積極的な活用	<ul style="list-style-type: none">授業でのクロムブックの活用の推進学校と家庭とをオンラインでつなぐ取組の推進	<ul style="list-style-type: none">すべての教科でクロムブックを活用した授業が日常的に実施されている状況であるが、教科によって取組方に軽重がある。教育課程説明会、修学旅行説明会、進路説明会、自然教室説明会等、様々な場面でオンラインを活用した保護者説明会を実施した。不登校生徒や学習室で過ごしている生徒の学習にスタディサブリを活用した。不登校生徒への連絡手段としてのクロムブックの活用を推進した。	<ul style="list-style-type: none">不登校生徒とのコミュニケーションツールとしての活用が担任によって差異があり、そこを改善していきたい。

5	人権尊重意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の行事や委員会活動の実施 ・かわさき共生＊共育プログラムの効果的な活用 ・人権尊重の意識の向上を目指した取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大の影響による制限はあるものの、体育祭、文化祭、合唱コンクール等の各行事や生徒総会や小学生の部活動体験等、様々な場面で生徒主体の活動を実施することができた。保護者アンケートの「学校行事は楽しく充実していると思いますか」という質問に対する肯定的な回答は約9割となっている。 ・川崎市学習状況調査の結果を見ると、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問についての肯定的な回答の割合が各学年70％代となっている。 ・標準服のデザイン変更に着手し、生徒・保護者・地域の声を集めるとともに、デザイン変更に伴う業者等との交渉に精力的に努め、令和6年度から新しい標準服を導入することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動での生徒主体の企画運営の充実とともに、活動後のふりかえりの取組を継続して推進する。 ・生徒の自己肯定感を高めるよう、達成感を感じる指導、夢や希望が抱けるような指導に継続して取り組んでいく。 ・在校生の標準服の扱いについて、しっかりと合意形成を図っていく。
6	いじめ・不登校への対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援教育校内委員会の定期的な実施 ・学習室での個別対応の充実 ・川崎市いじめ防止基本方針の教職員の周知と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援教育校内委員会を定期的(週1回)に実施し、情報交換及び対象生徒への支援方法の検討し実施した。 ・学習室の個別対応を計画的に実施し、教室に入れない生徒への対応に努めた。3年生に関しては所属する学級とのつながりができ、教室へ入る動きが増えてきている。 ・不登校ハンドブック、川崎市いじめ防止基本方針に関わる職員研修を実施し、内容の周知と活用に努めた。 ・いじめと認められる事案は複数発生しているが、可能な限り迅速、丁寧な対応に心がけ、保護者等関係者の理解を得るなど、解決できるよう努めている。 ・不登校生徒とのコミュニケーションツールとしてクロムブックの活用を推進したが、取組に差異が生じている。 ・保護者アンケートでは、学校が相談しやすい雰囲気かどうかについて、約35％の保護者が生徒にとっても保護者にとっても相談しやすいとは言えない状況であるという回答であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に則り、未然防止に努めるとともに、いじめが発生した場合、組織的な対応のさらなる充実に努める。 ・不登校生徒への対応について、他機関、SC、保護者との連携をさらに深め、不登校生徒数の減少に努める。学習室については今年度と継続して取組を進める。 ・オンラインを活用した不登校生徒とのコミュニケーションについて、工夫と推進を図る。 ・生徒にとっても保護者にとっても学校が相談しやすい場であることを様々な場面で情報発信していく必要がある。
7	健康指導の充実、危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康教育」「安全教育」の指導の定期的な実施 ・防災訓練の取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康安全についての共通理解を図り、学校全体で取り組む意識を向上させるため、主任会(週1回)、職員会議(月1回)で情報交換をきめ細やかに行った。 ・薬物乱用防止教室(薬剤師による薬の適正な使用について)、サイバー教室(県警の警察官によるSNSトラブル防止について)、心の健康教室(養護教諭による不安や悩みへの対処について)を実施した。 ・年2回の防災訓練を実施するとともに、3回目として集団下校訓練を実施し、その改善に向けて保護者アンケートで意見を集めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康・安全に関する取組を途切れることなく継続して実施していく。 ・防災対策について、保護者アンケートに記述された内容をもとに危機管理マニュアルの見直しを図る。
8	保護者・地域との連携や積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した学校行事等の実施 ・情報の積極的な発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力を得ながら、地域フィールドワークや福祉体験学習を実施することができた。 ・体育祭、栗檜祭(文化祭)、合唱コンクール等の各行事を地域の協力を得ながら実施することができた。 ・学校HPを使つての情報発信に努めた。保護者アンケートでは、約8割の保護者が学校HPについて、あまり見えていない、またはまったく見えていない状況であり、HPの内容を充実させるとともに、HPの活用について広報していきたい ・今後のPTA活動について、PTA役員会や運営委員会で様々な意見交換を行った。 ・学校運営協議会を年3回開催し、現時点での宮崎中学校の課題や今後の取組について意見交換をした。特に標準服のデザイン変更については、地域の声の収集の場として運営協議会が大きな役割を果たしたといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮中フェスティバル、あつたかまつり」の今後について、昨今の状況からどのように開催していくかについて保護者・地域と十分に協議していく ・ロゴフォームを活用した保護者アンケートを実施することで、これまで以上に保護者の声を集めることができたが、質問内容を精査していく。 ・学校運営協議会を宮崎中学校の発展のために、より効果的な協議会になるよう、運営方法について考えていく。

学校関係者の評価

今年度最後の学校運営協議会を2月16日に開催した。内容は、各学年の代表生徒による学年の取組の報告(1年 地域フィールドワーク、2年 東京校外学習、3年 修学旅行)をした。委員からは賞賛と報告に関する質問が活発に得られた。次に、今年度の取組について学校から報告した。次年度から実施する標準服のデザイン変更についての地域の声、保護者の声等について意見交換した。若干、これまでの伝統を懐かしむ声もあるが、概ね肯定的に捉えられているようである。その後、1月に実施した集団下校の話題から地域防災についての議論が活発に行われ、保護者アンケートの中に防災に関する質問項目を設け意見を集めることを確認した。また、理科室や美術室等のWi-Fi環境を整える必要性について、教育委員会に働きかけていくことを確認した。

今年度のまとめ ・ 次年度へ向けて

教職員の働き方改革については、時間外勤務時間や意識の面で少しずつ改善の方向は見られるが、まだまだ十分な状況とは言えない。ICTの活用、業務の思い切った削減、組織改革に継続して取り組んでいきたい。授業改善については、GIGAの活用については一定の成果が見られていると思うが、保護者アンケートを見ると、3割に近い保護者がまだまだ十分に活用されているとは言えない状況と捉えており、さらに情報発信に努めていきたい。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組、信頼される学習評価等についても引き続き不断の取組を続けたい。各行事については、生徒たちも主体的、積極的に取り組んでおり、保護者アンケートからも9割近くの保護者が肯定的に捉えており、今後も生徒主体の運営を軸に各行事を実施していきたい。

生徒の意識については、自己肯定感の向上を掲げ教育指導に取り組んでいるが、十分とは言えない状況が続いている。生徒が達成感が感じられる取組の推進、生徒主体の授業づくりや学校行事の運営等の充実を図り、改善をしていきたい。不登校等支援教育については、キャリアデザイン教室が有効に機能しているが、今後もさらなる充実を努めたい。また、コミュニケーションツールとしてGIGAの活用についても取組の推進を図りたい。また、防災について保護者アンケートから得られた意見を参考に取組を推進していきたい。